

リーグ戦要項

リーグ戦は、本要項及び令和2年公認野球規則により行う。

〈細則〉

1. 各県の優勝大学は、東海地区大学野球選手権に出場する。
2. 選手資格は、試合開始前に交換するメンバー表に登録された選手とし、交換後は変更できない。
3. ベンチ・グラウンドに入れるのはチームの部長又は副部長(1名)、監督、コーチ(2名まで)、トレーナー、主務、スコアラー(女子主務及びスコアラーはグラウンド内には入れない)、選手25名以内とする。背番号は監督30、コーチ31・32、主将10とし、選手はその他番号とする。
4. 試合前(原則として第1試合はシートノック開始15分前)に登録選手の中から選手25名以内を記入したメンバー表を主将又は主務立会いのもと、本部に5部提出する。
5. メンバー表交換後に背番号の書き間違い並びに同一ユニフォームでない選手が判明した時は、先発メンバー発表(場内放送)までに訂正しなければならない。
先発メンバー発表後に間違い等が判明した場合は、当該選手はその試合に出場できない。
6. グラウンド整備は、試合前・試合後の他、原則として5回終了時及び延長戦に入る前とし、当番大学が行う。
7. 各球場の当番大学は、試合準備を1時間前に行う。(責任者は同行する)
8. グラウンドコンディションが不良の場合は、各球場の当番大学が判断する。
9. 大学独自の理由(大学の行事等)のため、試合開始予定時間に遅れた場合は、棄権とする。(この場合、9対0で負けとする)但し、公共交通機関を利用したにも係わらず、試合開始予定時間に遅れた場合は、連盟が即時に審議し、その後の対応を決定する。
10. 新加盟選手等の登録をする時は、登録名簿を当番大学にそのコピーを県内の大学に提出すること。
11. 監督がベンチに入れない場合は、代行者を本部及び対戦相手に報告すること。
また、代行者はメンバー表交換時に監督代行と記入すること。

〈試合方法〉

1. 各県にてリーグ戦を行うが、三重は勝点制とし、静岡、岐阜は勝率制とする。同率の場合は決定戦を行う。決定戦の方法は各々の県において役員が協議し決定する。決定戦での個人成績は、個人記録には反映しない。
2. 三重は1勝1敗の後、第3戦の先攻・後攻はジャンケンにより決定する。(3回戦以降のノーゲームの場合も同様とし、ジャンケンはその事由が発生した時に行う)その際のベンチは、後攻を一塁側とする。
3. 得点差によるコールドゲームは5回以降10点差以上、7回以降7点差以上とし、日没、降雨によるコールドゲームは7回をもって成立する。
4. 延長戦は10回よりタイブレイク方式を採用する。アウトカウントは無死、走者は一・二塁とし打順は継続打順とする。
5. 宣告四球を認める。宣告四球は監督のみが行いボールカウントは問わない。
6. 日没引き分けの場合は、再試合を行う。
7. 照明施設のないグラウンドについては、日没時間2時間前を目途に試合開始を検討すること。
8. 抗議権は監督、コーチ、当事者とする。
9. シートノックは7分間(ボール回しを含む)とする。但し、試合運営上行わない場合もある。
10. 試合前のバッティングは行わない。トスバッティングは可能であるが、本部席及びスタンド方向へ打たないこと。
11. DH制を採用する。(秋季選手権大会は採用しない)
12. 試合中選手に事故が起き、一時走者を代えるべきと審判員又は本部で判断した時は、相手チームに説明し、臨時代走を出すことができる。代走者は、その試合に出場している選手に限られ、走者から一番番れている選手であること。(但し、バッテリーは除いてもよい)基本的には、頭部へボールが当たった場合は必ず臨時代走を出し、ベンチで選手の状態を観察すること。
13. バットは木製とし、NPBまたはBFJ承認のものとする。
14. 打者のヘルメットは両耳用を使用する。
15. ベースコーチは打球に対する防護のため、両耳ヘルメットを着用すること。但し、監督・コーチ(学生コーチは除く)は耳無ヘルメットも可とする。
16. 第一試合以降の先発投手は、前試合の8回からグラウンド内ブルペンに入ることができる。
17. 試合中グラウンド内での投球練習及び野手のキャッチボールは、ブルペン内のみとし、その他の地域での投球練習は認めない。
18. インニング間及びブルペンでの投球練習の際、捕手はプロテクター、マスク、レガース、キャッチャー用ヘルメットを装備すること。また、試合中はヘルメット等をグラウンド内に置かないこと。
19. 試合中、グラウンド内ブルペンのバッテリーを打球等の危険から守るため、投手又は捕手の後方に選手を立てること。
20. ボールボーイはヘルメットを着用すること。
21. ベンチ内にメガホン等は持ち込まない。
22. ホームランを打った打者をベンチ外で出迎えない。
23. 次打者以外の選手のインニング中のグラウンド内でのスイングを禁止する。また、グラウンド内でのランニングは攻守交代時に行うこと。
24. ネクストバッターズサークルへのマスコット(トレーニング)バット(試合用バットと同じ形状のもの:木製)の持込及びスイングは可能であるが、投手が投球する動作を開始した際は低い姿勢で待機すること。
25. スイング用の鉄棒、リング等はベンチ内に持ち込まない。
26. 審判員は選手がスポーツマンらしくない言動をとった場合は、その事実を本部及び当該監督に報告し、必要とあらばその選手を退場させるよう、当該監督に進言することができる。退場の判断は、当該部長・監督(不在の場合は監督代行者)が行うものとするが、本部は、その事実を正確に把握し、理事長に対し文書により速やかに報告しなければならない。
27. 審判員の判定に対し、抗議を行った際、審判(四氏)の協議後はルール上の問題以外、判定に従い、速やかに試合を再開すること。
28. 大会中、選手・観客等の不時の負傷又は疾病に対して応急処置を施すが、主催者はその責任を負わない。

マナーアップに関する取り決め事項

1. 禁止事項

- (1) サイン盗み行為の禁止
走者から打者へのサインの伝達の禁止。紛らわしい動作も禁止する。
- (2) 暴言、汚い野次の禁止
相手チームや審判員などへの暴言や中傷的な野次を禁止する。
- (3) 投手交代、本塁打時の出迎え禁止
投手交代や本塁打時にベンチから出での迎え入れを禁止する。
- (4) ユニフォーム着用時の喫煙禁止
ユニフォーム着用時の喫煙を禁止する。
- (5) 審判服着用時の喫煙禁止
審判服着用時の喫煙を禁止する。

2. スピードアップに関する規定

- (1) スピードアップ
下記、「社会人及び大学野球における試合のスピードアップに関する特別規則」を適用する。

社会人及び大学野球における試合のスピードアップに関する特別規則

公益財団法人日本野球連盟並びに公益財団法人全日本大学野球連盟は、試合のスピードアップを図るため、以下のとおり共通の特別規則を制定することに合意する。

1. イニング間の時間は2分10秒以内とし、その計時は次ときに始まり、球審がプレイを宣告したときに終わる。
 - (1) 1回の表は、先発投手が球審からボールを受け取ったとき。
 - (2) 攻守交代の場合は、第3アウトが成立したとき。
 - (3) イニングの途中で投手が交代する場合は、守備側の監督が球審に交代を通告したとき。
2. 投手の「準備投球」は公認野球規則5.07(b)に準ずる。ただし、上記1の計時が開始されてから1分40秒が経過したら、1球だけ投球することができる。また、試合に出場している投手のベンチ横及びブルペン(室内を含む)でのキャッチボールを禁止する。
3. 投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受けた後、走者がいない場合には12秒以内に、走者がいる場合は20秒以内に投球しなければならない。
違反した場合、球審は走者が塁にいない場合はただちにボールを宣告し、走者がいる場合は警告を発することとし、同一の投手が2度繰り返したら、3度目からはその都度ボールを宣告する。
なお、塁に牽制球を送球したときは、20秒の計時をリセットする。
4. 監督またはコーチが投手のもとへ行くことに関して、規則5.10(1)を適用する。
5. 監督またはコーチが1試合(9イニングス)に投手のもとへ行ける回数を3回までとする。この場合、投手を交代させた場合は回数には数えない。
3回投手のもとへ行った後、4回目以降に行けば、そのときの投手は自動的に試合から退かなければならない。
スピードアップの観点から、監督またはコーチが捕手を呼びよせる行為も同様とする。
なお、延長回に入った場合には、規則5.10(1)の規定を適用する。
6. イニングの途中で投手を交代させる際に監督またはコーチが投手のもとへ行き、新しい投手が準備投球を始めた後もそのまま留まっていた場合には1回に数える。
また、イニングの初めから投手を交代させる場合においても、監督またはコーチがマウンドに行った場合1回に数える。
7. 監督またはコーチが4回目に投手のもとへ行くとき、または1イニングに2回目に投手のもとへ行くときは、監督は投手のもとへ行く前に球審に投手の交代を告げなければならない。
8. ダブルスイッチ(投手交代と同時に野手も交代させて、打撃順を入れ替える)の場合、監督はファウルラインを超える前に、複数の交代と入れ替える打撃順を球審に通告しなければならない。監督またはコーチがファウルラインを超えてしまえば、その後ダブルスイッチすることはできない。(5.10(b)【原注】)
9. 監督またはコーチが投手のもとに行った場合、審判員がタイムをかけてから45秒以内に打ち合わせを終了する。
10. 内野手(捕手を含む)が投手のもとへ行ける回数を、1イニングにつき1回1人だけとする。
監督またはコーチが投手のもとに行ったときも1人の内野手だけ(この場合は捕手を含まない)が投手のもとへ行くことが許され、そしてそれは内野手が投手のもとへ行った回数に数えられる。
なお、投手交代により新しく出てきた投手が準備投球を終えた後、捕手が投手のもとへ行っても、捕手が投手のもとへ行った回数には数えない。
11. 1試合につき攻撃側の話し合いを3回まで認める。攻撃側の話し合いは、監督が打者、走者、打者席に向かう次打者またはコーチと話し合うためにタイムをとって試合が遅れる場合にカウントされる。
なお、延長回に入った場合は、それ以前の回数に関係なく、3イニングスにつき1回の話し合いが認められる。
ただし、攻撃側の責めに帰せないタイム中(例えば、守備側が投手のもとに集まっているとき、選手が負傷したとき、選手の交代のときなど)に話し合いを持って、さらに試合を遅延させない限り、回数には数えない。

附則 この規則は、令和元年6月9日より一部を改正する。